

令和5年度 現職者共通研修

事例報告・事例検討

発表者事前説明

実施方法 Zoom

受付時 メインルーム

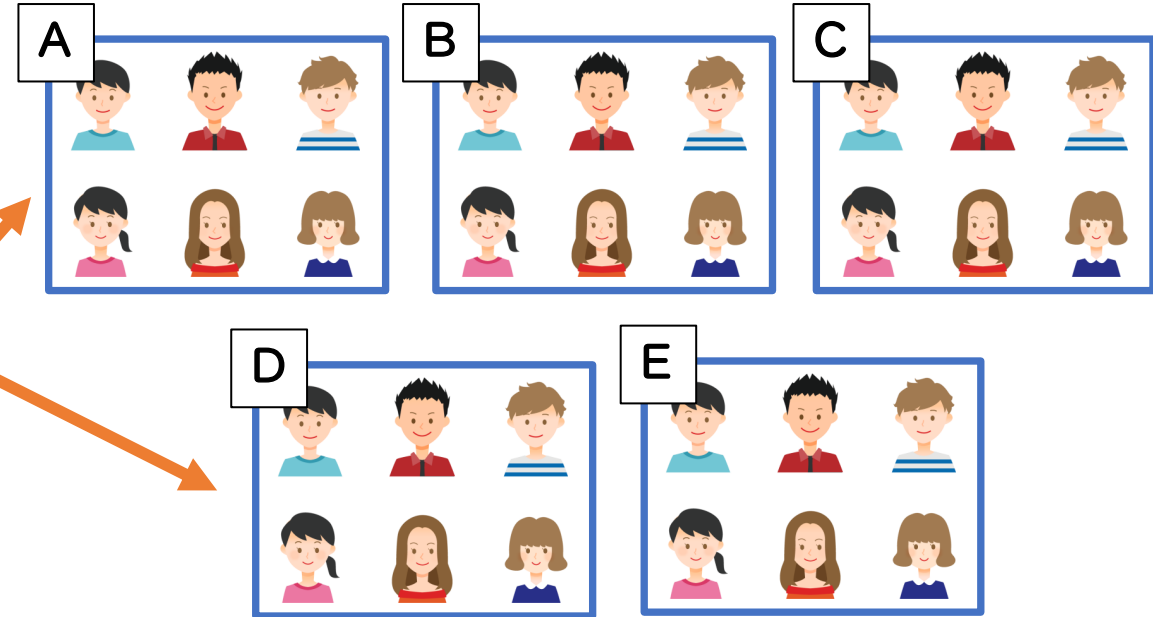
発表者・ファシリテーター（座長）・検討者・聴講者



発表時もメインルームには運営スタッフ待機

発表時

ブレイクアウトルーム 5ルーム



各部屋に 発表者 数名
ファシリテーター（座長） 1名
運営スタッフ1名

発表形式

- 発表時間 7分 質疑応答 3分 計10分
- 1時間で5名発表
- 1ルームにつき2時間実施。※応募人数によって変動あります
- パソコンは必ず一人一デバイスで使用してください

抄録作成要綱 ①

- A4用紙1枚で、Word文書（Windows2003Ver以降）で作成
- 余白 上下20mm、左右15mm
- 本文は2段組とし、文字数は1700字以内とする
- 題名の文字サイズは12ポイント、所属・氏名・本文は10～10.5ポイント
- 題名と所属・氏名、また所属・氏名と本文の間は一行ずつスペースをあける

抄録作成要綱 ②

- 本文には【はじめに】【症例紹介】【評価】【内容と経過】【結果】
【考察】等の小見出しをつける
(作業療法介入に関する一連の流れが含まれる構成にする)
- 原則として倫理的配慮に関する記載が必要
関係機関の倫理審査委員会等の承諾を得た場合はそのことを記載する
発表への同意を得た旨を記載する
(例：報告にあたり、本人の同意を得た)
- 図表は不鮮明にならないように注意し必要に応じて挿入可能
- 作成後、提出する際はファイルの形式をPDFにして提出

抄録作成要項のまとめ

こちらを参考に作成をお願いします。

左半側空間無視患者に対する前庭系賦活の有用性

文字サイズ：
漢字名 12ポイント
本文 10~10.5ポイント

1行空ける。

兵庫県学会病院 作業花 1行空ける。

【はじめに】
近年、脳卒中による左半側空間無視の患者が増加している。本症の適応に関しては実用的でないことも指摘されている。そこで今回、前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果について検討を行った。結果として、前庭系賦活は左半側空間無視の軽減に有効であった。したがって、前庭系賦活は左半側空間無視の軽減に有効であると考えられる。本症例の経過を報告する。尚、発症から1年経過した時点で、前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果が認められた。本症例の経過を報告する。尚、発症から1年経過した時点で、前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果が認められた。本症例の経過を報告する。尚、発症から1年経過した時点で、前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果が認められた。

所属・氏名は10~10.5ポイント

抄録：A4用紙1枚、Word文書（Windows 2003Ver以降）で作成。
余白：上下：20mm、左右：15mmで設定。
本文：2段組とし、1700文字以内とする。

【症例紹介】
70歳代男性。診断名：右急性硬膜下血腫術後・脳挫傷。現病歴：X月Y日転倒受傷、X+1月+5日血腫の拡大を認め穿頭血腫除去術施行、X+2月+2日当院転院。既往歴：50歳代に脳梗塞、左片麻痺（杖歩行自立）。画像所見：頭部CTで両側前頭葉、右頭頂葉・後頭葉に脳挫傷後の低吸収域を認める。前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果が認められた。本症例の経過を報告する。尚、発症から1年経過した時点で、前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果が認められた。本症例の経過を報告する。尚、発症から1年経過した時点で、前庭系賦活による左半側空間無視の軽減効果が認められた。

原則として、倫理的配慮に関する記載が必要。

【結果】
線分抹消試験で改善を認め、線分二等分試験、時計描画試験は若干の改善であった。ADL：日常生活動作が軽微に改善された。車いすでの食事が可能となったが左側の食べ残しは残存した。

図表は必要に応じて挿入。
印刷時に不鮮明にならないよう注意。

【作業療法評価】
左 Br. stage：上肢Ⅲ・手指Ⅳ・下肢Ⅲ。触覚・位置覚：重度鈍麻。左同名半盲。机上検査で重度の左半側空間無視。病態失認。HDS-R：14/30点。ADL：ほぼ全介助状態（FIM26/126点）。食事はベッド上でスプーンにて可能だが、左側の食器の見落としあり。Pusher現象を認め、車いすから降り落ちる事が多く特に移乗動作は重度介助。

【治療内容と経過】
車いす坐位で正中位に棒を垂直に立て、棒の左右を覗くように重心移動を誘導した。これに対し強い抵抗を示したため背もたれへの適応を促し、狭い範囲から徐々に運動を拡大し前庭入力、体幹・頸部の固有感覚と視覚を統合すること

【参考文献】
Karnath H-O, Dieterich M: Spatial neglect and vestibular disorder?. Brain 129:293-305, 2006.
石合 純夫: 半側空間無視の代償と回復。失語症研究 16: 22-29, 1996.

スライド作成要綱

- スライドの作成はMicrosoft Power Pointで作成
- 静止画のみ使用可能
- アニメーション・動画使用不可
- 作成後、提出する際はファイルの形式をPDFにして提出
- PDFファイルを画面共有して発表

メールで抄録・スライドを送信時の注意点

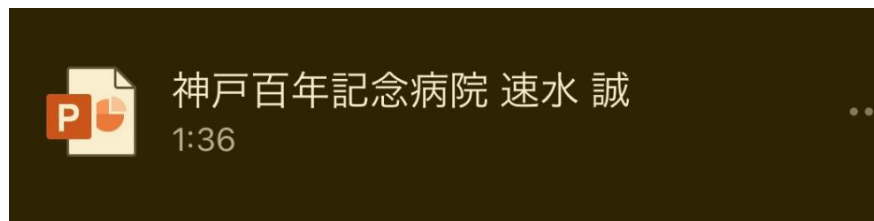
メール件名に所属と名前のみ記入する事

例①



抄録・スライドともにファイル名には所属と名前のみ記入する

例②



当日のタイムスケジュール

令和6年2月4日

(日)

9:00	Zoomミーティング開始	待機室への入室
9:20	メインルームに入室 (受付開始) 入室時には必ず名前変更 (例:A-I 氏名・発表者、氏名・検討者、氏名・聴講者)	
9:40	発表者に対し実施について説明	(発表者以外も聴講)
9:50	開会挨拶	
9:55	各ブレイクアウトルームに移動	
10:00	各ブレイクアウトルームにて発表開始	
10:55	休憩	
11:00	発表再開	発表終了ルームごとにメインルームへ戻る
12:00	発表後の手続きについて事務連絡 閉会挨拶	

事例報告指導者（ファシリテーター）について

- ・事例報告指導者に関しては発表者が各自で確保してください

※事例報告指導者の確保が難しい場合は運営が協力しますのでご相談ください

※事例報告指導者には2ポイント付与

但し日本作業療法士協会かつ県士会員であり、生涯教育制度基礎研修修了者であること

※発表者1名につき1人の事例報告指導者が付くようお願いいたします

発表決定後の流れ

抄録提出期間	令和6年1月4日（木）～令和6年1月12日（金）	メール・PDF
スライド提出期間	令和6年1月17日（水）～令和6年1月24日（水）	メール・PDF
抄録 当日のZOOMのURL	令和6年1月25日（木）ごろ PetexからのメールにURLを添付しお知らせします	Petex,メール
事前接続テスト	令和6年2月2日（金）19:00～19:30	Zoom
事例報告・検討会当日	令和6年2月4日（日）9:20受付開始	Zoom

問合せ先：kobeblock2020@gmail.com 速水 誠

件名には、氏名・件名の内容を記載し、送信していただきますようお願いいたします。